



「プロジェクト未来遺産」登録2年目の「三石灯りの街」が開催

会長 池田満之



岡山ユネスコ協会と備前市が推薦した岡山県備前市三石地区における「三石灯りの街～子どもたちと伝える耐火煉瓦で栄えたまちの記憶～」(M プロジェクト協議会)が、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に登録されて2年目です。メインとなる「三石灯りの街」は、2024年9月14日(土)に、三石中学校グラウンドや三石八幡宮、四列穴門などで開催されました。約4500個のろうそくによる灯明が、三石地区を幻想的に彩りました。21年目となる今回のテーマは、「メッセージ」でした。三石中学校グラウンドのメインの地上絵は、男女のピクトグラム(絵文字)をデザインしていました。鳥をデザインした三石八幡宮のピクトグラムなどもカラフルで美しく、とても好評でした。地域が一丸となって取り組む地区最大のプロジェクトを、岡山ユネスコ協会としても今後も応援していきたいと思えます。



「おかやま SDGs フェア 2024 ～子どもたちと学ぶ 私たちの未来～

SDGs パスポート担当理事 曾田佳代子

8月6日 岡山県医師会館にて

持続可能な社会づくりの担い手として成長する生徒たちの、ボランティア活動を紹介する機会を頂きました。岡山市立操山中学校と岡山大学教育学部附属中学校の2校の中学生より日ごろの取り組みを発表していただいた、岡山市教育委員会の学校指導課西山育臣指導副主査に助言を頂きました。当日は、ステージ発表の後、実行委員会主

催の交流会にも参加し、大人たちと和気藹々に語り合うことも出来ました。(参加者 池田 藤木 徳山 角田 井上 森 曾田)

岡山市立操山中学校の発表について

岡山市立操山中学校は、ボランティア委員会で、



毎月点字ブロック記念碑の清掃をするとともに、学校から記念碑までの用水路に落ちているゴミも拾っている等の活動報告がありました。そして、盲学校の方のエスコートをして交流を深め、これを元に視覚障害者にとって不安があるところを発見し、環境の改善点などを探しています。更に岡山市長、岡山市議会などにも情報を届け、改善に繋げるという実践的な活動を行っていることに感心しました。どこに危険があるのか、どうあたら安心して出掛けられるのか、ヒカリカナタ募金との協働も実現させています。併せて、学区の小中学生との交流も定期的に継続し、縦の世代と繋がっていくことを大事にしていることが同われ頼もしく感じました。(文責 曾田佳代子)

岡山市立操山中学校 (発表者3年 門田沙織さん 3年森田紗有さんより)

操山学区は点字ブロックの発祥の地なので、視覚障害者にとって便利だと思われがちですが、多くの点字ブロックが設置されてから時間が経っています。そのため白杖で危険を認識しづらくなっています。もし視覚障害のある方をはじめ困っている人がいたら、声を掛けていきたいと思えます。SDGs パスポートを活用して地域のボランティアや、もっと大きな活動にも参加していきたいです。高校になってもボランティア活動に積極的に活動していきたいです。ありがとうございました。

岡山大学附属中学校の発表について

岡大附属中学校の発表は、喫緊の課題である海ゴミ問題についての活動や、岡山県の高齢化率が30%を超え、地域格差が進む中、医師とAIとの連携や、こうした時代だからこそ医師の人間力の重要さ、また健康増進に向けたラジオ体操やカルチャーゾーンを活用したパートナーシップでの取組の必要性などに言及するとともに、ゲノム



情報を応用した病気の診断と予防、治療に革命的進歩がもたらされる医療の可能性について熱く語っていました。どの提案も熱い思いに溢れ、未来に生きるエネルギーを感じました。こうした地域社会での体験活動から自ら課題を発見し、自分なりの解決方法を見出していく探究活動を通して、子どもたちには地域愛や当事者意識が育つとともに、地域の方には未来を見据えた子どもたちの提案や活動が愛される学校へとつながり、学校応援団や協力者を増やしていくのだと思います。まずは身近な地域・社会の課題解決に向けて、自ら進んでボランティア活動に参加し、SDGsのゴール目標に向かって主体的な動きを育ててほしいと願っています。(文責 徳山順子)

岡山大学教育学部附属中学校 銅前 はるか さん

先日は貴重なイベントに参加させていただき、ありがとうございました。イベントでは参加者同士が交流できる機会が多くあり、考えを深めたり視野を広げたりすることができました。発表を聞かせていただいた操山中学校のお二人は、附属中学校とは別のかたちで「持続可能な社会」を考え、行動されていてこれからの探究活動にとってもいい刺激になりました。また、交流会ではクイズやゲームを通してSDGsを考えることができ、「難しく考えず、身近なことから自分ごととして考えてみよう」と思いました。会場には同年代の方も多く「これからの社会を創っていくのは私達なんだな」と自覚し、イベントに参加する前より「自分の行動に対する責任感」を強く感じました。中学校での探求活動は10月で終わってしまいましたが、その後も現状を見てもみぬふりするのではなく、きちんと向き合える人になりたいです。

岡山大学教育学部附属中学校 中本 華 さん

私は今回、「瀬戸内海をきれいにするためには？！」というテーマで発表させていただきました。自分が探究してきたことを発表することは緊張しましたが、海ごみをなくしていくためには、「一人一人が自分事としてとらえるということが必要」という事を実際に起こっている瀬戸内海に関する問題に紐づけながら発表することができました。

また、同じく発表していた操山中学校さんやBlue Earth Projectの皆さんとの交流を通じ、自分が住んでいる地域に対して何ができるのかを考える糸口がつかめたようにも思います。この経験を生かし、これからも海をきれいにするために自分は何ができるのか探究し、瀬戸内海をきれいにするお手伝いが少しでもできたらいいなと思います。

岡山大学教育学部附属中学校 江口 果歩 さん

先日はSDGsフェアに参加させていただきありがとうございました。操山中学校の方の発表を聞かせていただきましたが、ボランティア活動をはじめとしたたくさんの取り組みで地域に貢献されていて、とても感銘を受けました。また、実際に市や議会にも意見書を提出したというお話を聞き、私も今後の活動では、学校の中に留まらず、広い視野で積極的に活動していきたいと感じました。他にも様々なブースを拝見させていただきましたが、今までに見たことの無いような発想からの活動を知ることができ、「SDGsにそのような取り組み方があるのだ」と視野を広げることができたように感じます。交流会にも参加させていただきましたが、県内外から来られたたくさんの方とお話をして、実りのある時間となりました。またこのような機会があれば、ぜひ参加させていただきたいと思えます。この度は本当にありがとうございました。

岡山大学教育学部附属中学校 久澄大勢 さん

先日は、私たちにER探究活動への理解を深める機会を設けていただき、本当にありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、私達は全力で探究活動に取り組むことができました。特に印象的なのは、交流会の時のことです。きゅうりの入った炭酸飲料や、二酸化炭素の量を減らす自動販売機のような機械など、たくさんのユニークな発明品に触れられ、とても特殊で良い経験になりました。他にも 同年代の同じような境遇の人たちと交流したとき、多角的な視点の意見が、互いに今後の探究活動につながる良い刺激になったと思います。今回の経験を糧にし、さらにより良い探究活動を実現したいと思います。

重ねてになりますが、先日は本当にお世話になりました。



「第25回平和の鐘を鳴らそう！in長泉寺 開催報告

事務局 井上 紘貴



から鐘を鳴らしました。

例年だと「平和の講話」で外部講師をお招きして講演をいただいておりますが、今年度は紺野美沙子さんの朗読劇『星は見ている～原爆でわが子を亡くした父母らの手記より～』のDVD鑑賞を行い、その後

2024年8月15日木曜日、岡山市北区南方の長泉寺を会場に「第25回平和の鐘を鳴らそう！in長泉寺」を開催いたしました。当日は会員、ボランティアの中高生、一般来場者、メディア関係者あわせて約50名が参加しました。11:45に開会し、会長挨拶を経て「わたしの平和宣言」を全員で唱和した後、12時前より一人ひとりが平和を祈りながら



は平和を語る座談会として参加者同士で感想をシェアしました。この“星は見て星は見ている～原爆でわが子を亡くした父母らの手記より～”ですが、YouTubeでもアップされているので、ご興味のある方は是非ともご覧ください。

昨年度は台風接近の影響でやむを得ず中止したため、2年振りの開催となりました。連日の猛暑の影響もあり、一般参加者が少なかったのが課題ではありますが、ボランティアの中高生の皆さん、毎年会場を提供していただいている長泉寺さん、参加された皆さまのお陰で無事に終わることができました。

以下、当日ボランティアとして参加しました、インターキッズ(NPO法人こくさいこどもフォーラム岡山)が主催する国際塾に参加している高校生の感想になります。

岡山理科大学附属高等学校1年 関根 碧海

今回のボランティアに参加し、平和維持活動の大切さを学びました。私たち若者は、戦争を経験したことがない世代です。また、日本では第二次世界大戦終戦以降、戦争は起きていません。そのため、戦争の悲惨さや被害について学ぶには、実際に戦争を経験された方の言葉を受け取るしかありません。戦争の良し悪し関係なく、戦争とはどういうものなのかを知ることは、現代を生きる私たちの使命だと考えます。日本で戦争について学ぶと、唯一の被爆国であることから、原爆のことを主に教えられます。



私は、何があったとしても原爆という選択は、絶対に選ぶべきではなかったと考えます。原爆を発明した科学者と原爆投下を決意した人には、是非自分が被爆することを想像してほしかったです。今日見た「星は見ている」で写されていた、焼け野原になった広島で、一人立っている自分自身を見渡す限り倒壊した家屋とやけどで肌が爛れた人を見るのは、とても心苦しく、絶望を感じるでしょうから。もちろん、第二次世界大戦は日本にも悪いところがありました。しつこく攻撃をし、自国を棚に上げていたと私は考えます。そのため、戦争に良し悪しを決めることはできません。ただ、戦争というものは、ひたすら過ちを犯し続けるものだと感じます。8月4日の国際塾の講義で、イスラエル・パレスチナについても学びましたが、結局市民が命を落とすだけで、一部の政治家や上層部のみしか利益を得ないものです。そのため、一刻も早く世界中の戦争が終わり、平和な世界になってほしいです。そして、日本でも平和の維持と啓発を続けていけたらいいなと考えます。すべての国のすべての世代が、戦争を体験したことがない世の中にならなければ良いと感じます。

清心女子高等学校2年 犬飼 絢葉

私は初めてこのボランティアに参加させていただき、平和宣言を朗読しました。平和宣言の1文1文はとても短いものでした。しかしその1文には重みがあり、今までの時代の人々が平和を作るために何ができるか考え抜いた結果という感じがしました。平和の鐘をついたり平和宣言を読むことで私は過去を思い未来に向けて祈ることができました。そして「星は見ている」の映画鑑賞では日常がほんの一瞬でなくなる怖さと出かけてくるその一瞬で家族が話されるため残された側に残る罪悪感を知り新たな戦争の知識が増えたと思います。今回のボランティアとの関係性はあまりないかもしれませんが、新聞社からの取材も受け、突然の質問にすぐほぼ完璧な日本語で返す難しさも体験しました。今回の平和の鐘を鳴らそう！in長泉寺では新しく経験することが多い1日となりました。

清心女子高校2年 浜田 紗葵

戦争と平和について改めて考えることができ、充実した一日でした。平和宣言をしたり、鐘を鳴らしたり、DVD鑑賞をしたりと、様々な体験を通して学ぶことが出来ました。特にDVDの内容は衝撃的で、戦争の恐ろしさがリアルに伝わってきました。星空はいつどんな時でも変わらず輝いているが、反対に地球上では人間同士の争いが繰り返り広げられ、悲しみや辛さがありました。この対比が私たち人間の小さな争いごとで沢山の人が傷つけられたということ、変わらない宇宙を表しているのかなと思いました。



「2024中国ブロック・ユネスコ活動研究会 in 東広島に参加して」

副会長 徳山順子

9月21日土曜日に広島大学で開催された「中国ブロック・ユネスコ活動研究会」に参加してきました。「平和・

国際貢献・地域とユネスコ活動のこれまでとこれから」をテーマに、広島県の5つの地域ユネスコ協会（広島・宮島・東広島・尾道・因島）が、ユネスコ憲章の理念に基づきながら、それぞれの地域的・歴史的・環境的・文化的な背景を大事にした多様な活動や取り組みを紹介し、分科会では青少年のユネスコ活動への参加の工夫などについて意見交換する中で、互いに学び合う貴重な機会となりました。

最初に、「中国ブロックESD活動顕彰」の受賞者表彰と活動事例の紹介がありました。岡山県では、地域社会の活力推進を図ることを目的に様々な事業に取り組んでいる「まちづくり市民応援団まにワッショイ」が受賞しました。14年間の地域活性化事業の中で、特に、明治40年（1907年）建築の木造校舎を会場に「なつかしの



学校給食」を開催し大盛況となりました。鳥取県の「米子北斗中学校・高等学校」では、自然環境問題や健康問題など地球規模の課題を生徒自らの問題として捉え、耕さず、肥料を与えず、農薬を使わない「協生農園」や「プランター型 シネコポータル」を作り、持続可能な未来を目指しています。他にも、島根県では「三谷神社獅子舞保存会」、山口県では「国際交流ひらかわの風」、広島県では「広島ベトナム平和友好協会」、そして、リサイクルと地域協働を通じた生徒のウェルビーイングや社会参加を目指している「県立西条特別支援学校」が受賞しました。

次に、広島県の各地域ユネスコ活動の紹介で、特に印象深かった活動は、広島ユネスコ協会では、時代を担う青少年を増やしていくために、英語でガイド in 広島や、高校生国際理解セミナー、ユネスコサロン等を開催していること、宮島ユネスコ協会では、きらっと宮島プロジェクトで、親子



での清掃活動や環境学習を行い、地球環境保護の重要性を地域に広げていること、東広島ユネスコ協会では、国際理解と国際協力の重要性・必要性から、タイの子ども村学園に図書館建設をしたこと、尾道ユネスコ協会では、歴史・文化の担い手となれるよう、未来遺産冊子「尾道の古建築は日本一」や町歩きを取り組みを行っていること、因島ユネスコ協会では、吉田松陰先生の歴史観・世界観で「全ての実践は志を立てることから始まる」の言葉を踏まえて、故郷の大好きな子どもを育てるために「わたしのまちの宝もの」はがきメッセージコンクールを開催し、作品を冊子にまとめ、各学校園や図書館・公民館等に配布し、因島ユネスコ活動



の普及に努めていること、また今年度は絵画から書に軸足を移し、「わたしのまちの宝もの」書道作品コンクールを行い、課題文字は「うみ」「みかん」「瀬戸内海」「造船の技」等、故郷に繋がる文字を書き、日本ユネスコと政府が「日本の書道文化」を世界ユネスコの「無形文化遺産」に登録するように働きかけている動きを後押ししています。こうして、故郷を大切にしたい、国を愛し、他国を尊重し、地球を大切にしたいという願いが込められています。



また、分科会では、中高生、大学生、青年など若い人に参加してもらうための工夫として、青年会議所や大学生・留学生との協力体制づくり、「わたしのまちの宝もの」の有効的な活用、そうした「場」づくりの工夫等について意見交換がなされました。それぞれの地域がもつ遺産を活用した取り組みや、様々なグループとの協力、担い手を育成するための場をつくることなど、地域ユネスコ協会として取り組むべき決意を新たにしました。

結びに、ロシアのウクライナ侵攻や、イスラエルとハマスの戦争、その他の国や地域においても人道上の深刻な危機をはらんでいる中、日本も平和がいつまでも保障されているとは言えない状況にあり、今こそ、ユネスコ憲章の理念を原点として、持続可能な平和な未来を紡いでいけるよう、これからも草の根のユネスコ活動を推進・展開していく必要があると改めて確信した、有意義な研究会となりました。

<編集後記>

岡山ユネスコ協会は、みなさんのご協力のおかげで、今年で30周年を迎えることができました。11月10日には岡山市と協働で、「岡山でのユネスコ活動30年の歩みから、文学による心豊かなまちづくり・人づくり」をテーマに、「岡山でのユネスコ活動再開30周年記念事業」が、岡山芸術創造劇場ハレノワで行われます。会員の皆様方には、ユネスコの活動についてご理解いただき、今後ともご協力をお願いいたします。これからもニュースレターを通して、会員の皆様からのご意見、ご感想を取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。連絡はメールでもかまいません。

理事 川口 芳子

